



北海道なのに気温と湿度の高いお盆でした。それでも日が暮れると涼やかな風も吹き、本堂の屋根のうえを夕焼けで満たしました。



お寺参りの準備もお手伝いに来ていただく時間を最小限に押さえ、婦人会成年会の方の協力をいただきました。また、お盆のお墓の清掃に木村正直さんご夫妻、鈴木寛さん、佐々木良子さん、佐々木洋子さん、佐藤大樹さんにお手伝いいただきました。ありがとうございました！



今年のお盆は暑かったですね！お墓経も混み合う時間が例年よりばらけたよう。分散にご協力いただきありがとうございます。お寺参りも窓を開放け放ちイースの間隔を十分に広げ、法要時間も短く行うなど新型コロナウイルス対策に気を配りながらお勤めしました。参拝者は少なめでしたが、事前に水塔婆とともに志納金を納めてくださった方も多く無事終えることができました。秋彼岸会も同じような形で行う予定です。

お盆のお寺のようす

「りょうかんさん」で親しまれている江戸時代の曹洞宗のお坊さん、良寛辞世の句。晩年、病を患い死期の迫る良寛さんのところへ一人の尼僧さんが駆けつけました。弟子の貞心さんという方で、良寛さんとは和歌を通じ心の交流をつづけていたといいます。その貞心さんの耳元で、いまわのきわの良寛さんはこの句をささやきました。

健康で余裕があれば、自分の力でどうにかして生きたいように生きたいし、見られたいように見られてみたい。だから人間、最期は誰の迷惑もかけたくないというのが本望です。ですが、生きるということは、自分の見せたくない部分が一身に受け止めてくれる誰かがいるということ。それが夫婦や親子であるかかも知れないし、友人かも知れないし病院の方が見ず知らずの誰かかも知れない。その「誰か」が今も私の裏側をすっかり引き受けてくださっている、そう思えば感謝の気持ちが自ずと湧いてきます。

うらを見せおもてを見せて散るもみぢ

(貞心尼『はちすの露』より)

Letter from Koutokunji Temple

Since 1736

発行元 曹洞宗慈眼山広徳寺
令和二年九月一日発行

梅花流詠讃歌

一緒にお唱えしてみませんか？

御詠歌は心の安らぎです。初めての方でも安心ですよ。

朝のお勤め 毎朝6時40分

朝、本堂でお参り一緒にどうですか？

20分程度で終わります。お気軽にお越しください。

新型コロナウイルス感染防止対策として、行事の参加にはマスクの着用をお勧めしております。各行事はソーシャルディスタンスを考慮した内容としております。体調不調の方は、行事の参加をお控えください。感染状況を鑑みて行事を中止する場合がございます。

寺こや

子どもが子どもらしく遊び学べる場所を。

「寺こや」のLINE公式アカウントを作りましたよ！境内で遊ぶ日時のご連絡をしますので、ご希望の方はこちらのQRコードから登録ください。



QRコード

お寺でボディメイク

かんたん体操してみませんか？

9月26日 / 10月10日 / 10月24日 / 11月7日
参加費 1,000円 (割引有) 土曜日夜6時半

※ 予約制ですのお電話下さい。

D

100mm

E

100mm

F

97mm (内側に折り込む)

B

C

「宗教は人間の作ったものでしょ」とおっしゃる方がいます。確かに人間の作ったものは信仰するに値しません。人間のはかりしれないいのちのありよう、それを
おなかの底で受けとめて生き抜いていく。それが宗教で説かれているところです。

100mm

D'

100mm

F'

97mm (内側に折り込む面)

F'

「お坊さんは職業?」

よく何かの手続きで職業は何か求められることがあります。
その時、当てはまるものがないので大抵は「その他」。
かっこの中に、「広徳寺副住職」と書く決めていました。
最初は「どう書けばよいのか迷っていました」。
生活をする手立てとなる仕事としてお経を読んでいる
わけではないし、そもそもお経を読むばかりが僧侶
でもない。
僧侶というのは生き方であって職業ではない。
そう受けとめています。

だから職業欄には「広徳寺副住職」。
ですが、生き方といっても、自分一人で僧侶になる
ことはできません。

例えてみるならば、それはお父さんやお母さんのよ
う。
出会った時は男で女ですが、子どもができれば自然に
お父さん、お母さんと呼ばれ、また互いに呼び合います。
お坊さんもまた、お坊さんとして手を合わせていた
くことで、私もお坊さんとして合掌することができま
す。
だから僧侶とは、誰か一人のことをいうのではありません。
僧侶というのは、人と人が手を合わせあう、この
姿すべてが僧侶なのでしょう。



お墓の前で立派に修行中です!

もっといえ、
お坊さんにさせて
いただく。
先日、お盆のお
墓経のとき、小学
二年生になる長男
もお勤めさせていただきました。

境内をかけまわり、笑い声がひびきます

第11回 寺こや自然塾

7月26日(日)



いつもよりも人数を半分に時間もぐっと短くして
お寺で小学生が坐禅にしたり、境内でパンを焼
いたり花火をしました。地藏堂や供養塔も掃除し
ましたよ!その後、日を改めてお盆前に成年会の方
がお盆の準備とともに地藏堂を仕上げにお掃除
してくれました。



枝の伐採や看板の設置も!

8月7日(金)

お盆終わって方丈(ほ
うじょう・住職)が
お寺の梅の木になっ
た梅で梅干しをつく
るのに、本堂前で梅
を並べ干しました。



8月20日(木)

A'

B'

C'